

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学部における担当授業数および職務分掌の公平化・平均化による研究専念時間の確保と増加を図る。	→「文学部各種委員等分担表(数年分)」、「大学執行部役職者一覧(数年分)」、「専任教員の担当授業時間」、「科研費申請数」、「入試問題作成・採点業務分担」	B
2. 文学部の授業実態に合わせた教育設備・機器の充実化を行う。	→「文学部本館・F号館のAV機器設置状況」、「文学部本館・F号館のコンピューター端末設置状況」、「コンピューター設置状況(他大学との比較)」	A
3. 外部研究資金獲得に関する実態調査と、応募促進のための仕組み作りの検討を開始する。	→「科研費申請応募・採択状況」	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.4	(方針) 教育・研究環境全般にわたる文学部内の実態調査を行い、その結果をふまえて、学部全体の環境向上をはかる。 (現状説明) 2008年度末に教室のAV関連機器の充実を行ったため、2009年度は設備面では大幅な環境の向上がみられた。教学補佐・実験実習補佐・教務補佐等の人数については、ここ数年ほぼ同数で推移しており、おおむね教育研究支援体制の整備は行われている。教員の研究専念時間については、大学全体を取り巻く状況の悪化に伴い、年々減少している。
☆ その他	

《特定6項目データ》

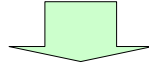
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学部】		単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	専任教員一人あたりの授業時間数	時間	→	→	→	→	→	大学基礎データ表22参照
指標2	教学補佐	人	37	41	42	40	42	他に、契約助手2 (2005、2006、2007、2008、 2009、2010年度)
	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	人	5	6	7	7	7	
	授業補佐	人	3	6	7	6	7	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目9.0.4	教室設備・環境の整備、教育支援体制の整備。教員の研究室の確保
	その他	



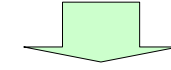
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目9.0.4	教室設備に関しては、文学部本館の整備に若干の遅れが出ているので、この点を重点的に考慮する。教員の個人研究室については、現在第1教授研究館の新築工事が行われており、2011年度に完成の予定である。
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目9.0.4	教員の研究費および研究専念時間の確保
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目9.0.4	学部内の業務分掌を公平にすることで、研究時間を確保することができ、また、学部の競争的研究資金への応募にかける時間も捻出できるようになるので、学部長を中心として2011年度の執行部交代のタイミングに合わせた、業務負担の平均化を検討する。
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○教育・研究設備面での改善が着実に図られています。教員の研究時間の確保については、更なる工夫が望まれます。

【学内委員】

○研究時間の確保のために担当授業数および職務分掌の公平化・平均化が試みられていることは重要です。しかし、これがなかなか実現しないというのが通常でしょう。実現が期待されます。また、教学補佐・実験実習補佐・教務補佐等を利用することによる教育研究支援体制の強化が図られていることは重要です。

○学内整備が進んでいることは評価出来ます。

○公務分掌の公平化・平均化については、他学部の見本となることが期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★	なし
---	----

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S1	個人研究費・研究旅費の額
9.0.0.S2	留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況
9.0.0.S5	科研費の申請・採択件数
9.0.0.S6	学外からの研究費の総額と一人当たりの額
9.0.0.S11	専任教員の発表論文数
9.0.0.S13	学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
9.0.0.S14	21世紀COEプログラムの採択状況
9.0.0.S15	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
9.0.0.S16	特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と使用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

<個別的な指標>
